

9期 自然・環境部会 観察会 ― 都筑区の緑道を歩き緑の保全を確認する ―

日時:2012年12月20日(木)、10時~14時、快晴

参加:飯塚、加茂、小杉、関、都留、福島、松下、そして小池(安・安部会)の各委員

特別参加 川手さん:港北ニュータウン開発の関係者、現在も緑道の保全活動をされている。

事前に開発の考え方を纏めた資料を受領。当日は、道すがら開発の裏話等の貴重な話を聞いた。川手さんを紹介戴いた小池さんに感謝。

以下の本文内の「 」は川手さんからの情報です。

コース:「市が尾」駅に集合しバスで「見花山」に移動、そこから緑道に入り、途中、予定していなかった山道にも入り、自然生態園を見学した後、「仲町台」駅近辺で解散。

そもそもこの緑道は「70年代後半から開発が始まった港北ニュータウンの中で、自然環境をしっかりと保全する為、谷戸に沿って存在している既存の緑を保存する道(幅50m)を作り、延長約13kmの市民のハイキングコースにもなりうる長さ」で設計され作られた人工の道。緑道の幅そのものは4~5mだが、緑道の両脇は木々で囲まれ、その先に住宅、マンションが緑道に沿って連なっている。正に「緑住隣接」の素敵な散策路だ。また、要所要所に広場(公園)が設定され、空と太陽も楽しむ事が出来る。近年、自転車も「原則通行禁止」になり、安心して散歩出来る。

なおこの緑道は、地域の公園愛護会や緑道愛護会がしっかりとメンテナンスしているのにも感心した。

さて、見花山から緑道に入り、落ち葉を踏みしだきながら鴨池公園に向け歩き始める。

両脇を大きな木で囲まれながら歩き始めて400m程で、緑道全体を紹介する案内板を見つけ、現在地、行き先を確認。案内板は緑道のあちこちにあり、都筑区の「市民の緑道利用を促進」させる意気込みを感じる。



再び歩き始めると、左手にはマンションが迫ってきたが、「以前は立派な桜並木があるグラウンドだったが、所有する企業が変わりマンションに」。しかし少し歩くと、マンション群は樹木の先となり圧迫感が薄れる。

「この竹林や樹林は昔のまま残してある」等の話を聞きながら、ゆるやかな下り道を歩くと右手の視界が広がり鴨池が見えてくる。「この池は人工。昔、ブラックバスが放たれてしまい、駆除するのに苦労した。名前の通り、以前は沢山の鴨が冬場には来ていたが、最近ほとんど見かけない。」たしかに渡り鳥の鴨ではないカルガモが数羽いただけだった。

鴨池を過ぎると、港北地区の主要幹線道路の一つである新横浜元石川線をまたぐ橋がある。この橋は「わざと曲げた、日本では珍しい橋」。両脇には植木が置かれ、コンクリートのイメージを和らげている。

橋を渡ると左手は広々とした広場で、その先でメインの緑道から外れて左手に曲がると右手は鬱蒼とした木々。30m程歩くと木々の先は深い谷間である事が判る。マンションのすぐ南側に、しっかりとメンテナンスされた、広い谷戸が残されているのが素晴らしい。



ここから、川手さんのアドバイスで谷戸の尾根にある細道に入る。「旧道」だそうだ。都筑区作成の「水と緑の散策マップ」には紹介されていない。「昔は、この旧道の北側の集落の人たちがこの道を通り、南側の中心地であった川和に住込みの働きに出ていた。」この一帯は、ニュータウン開発以前は人家もまばらで生産力も乏しい山林であった事が想像出来る。この細道を転ばない様に注意しながら歩き谷戸の南側に着くと、そこから急な下り道になる。ここは、簡素だがちゃんと階段が設置されている。

こどもログハウスを後ろに見て「ささぶねのみち」にでる。左手はマンション群、右手は一戸建ての家が緑道沿いに続くが、両脇は木々に囲まれ左手には狭いが疎水が流れている為、住宅地域を散策している感じは無い。平日の昼前なのに、ウォーキングや犬の散歩によく出会った。

500m程歩くと右手は葛ヶ谷公園の広場となる。ここで小休止。この広場の先には小高い丘があるが、この丘は「八王子から広がる多摩丘陵の中でピークの丘」との事。ここも多摩丘陵か、と感心した。公園とはいえこの広場も、滑り台やブランコ等の遊具は無い。遊び方は子供も大人も夫々が考えだす”単なる原っぱ”。原っぱのままにしておく事はスゴイと思う。解放感ある広場で、冬の陽が暖かい。なお、広場右手奥にはカーリングに似たシャッフルボードというゲームの専用コートと野球場がある。



また歩き始める。400m程で大原みねみち公園に。緑道左手に沿って細長い池。水はきれいではないが湧水との事。その奥の丘の上はマンション群だが、ここも木々が建物を遮っている。港北ニュータウンを南北に走る歴博通りを跨ぐ橋を渡り、ここでは地上を走る地下鉄のガード下に出る。短い距離だがここだけはコンクリートだけだ。

茅ヶ崎公園に入るが、ここはまた緑がたっぷりある。すぐ右手にある梅ヶ谷戸源流公園を川手さんから案内して戴く。ここでは、市からの補助金を活用してソーラ発電と地下水汲み上げポンプを設置し、細々ながら地下水を疎水に流している、との事。そこには、今は目にするのが珍しい手押しポンプがあった。加茂さんがハンドルをゴシゴシいだが、残念、地下水は出てこなかった。

塀を隔てた隣には、土日だけ公開される自然生態園があるが、川手さんの”顔”で、平日ながら入園する事が出来た。ここはその名の通り、里山とその植物と生物を保存している3haの貴重な一角で、湧水とため池、田んぼ、そして広い雑木林が残されている。管理人の先導で生態園の中をくまなく歩きながら、残されている野生の植物や樹木の保存方法(萌芽更新)等につき、大変丁寧なレクチャーを受けた。ため池には越冬で飛来してきたキンクロハグロが二羽。どこから飛んで来たのか？管理人の方からは、寺家ふるさと村の自然体系の保護領域の広さは”垂涎的”とまで賞賛されたが、寺家ふるさと村とは違い住宅エリアのど真ん中で、自然の里山と植物、生物を保持する地域とサポート体制がある事には、改めて感心する。生態園の前で集合写真をパチリ。



自然生態園を後にして樹木に覆われた疎水の横を歩く。右手は道路を隔てて一戸建てが連なるが、住宅街の横を歩いている感じは、ここでも全然無い。散策する人にも、住んでいる人にも、羨まし限りだ。疎水が切れた所から、再度川手さんのアドバイスで細い山道に入る。一山超えると右手に又広場。見花山から歩き始めて3つ目の”原っぱ”だ。

川手さんのお陰で想定外の山道を歩いたり自然生態園を見学出来たのは大変良かったが、当初予定時間からは大幅に遅れてしまった。その為、仲町台駅へは、横浜独逸学園の横からマンション群を抜ける近道のコースにした。両脇はマンションに囲まれ舗装された道路だが、車が入ってこれない為安心して歩ける。田園都市線の沿線で、住まいから駅まで、車が全く通らない道を歩いて行けるゼイタクなエリアはあるだろうか？

仲町台駅の近くで解散したのは2時前。当初予定より2時間程遅れてしまったが、川手さんのお陰で緑道と共に緑の中に保存されている細道も体験する事が出来た。充実した3時間半の観察会だった。なお、道すがら川手さんから教えて戴いた貴重な話を、ここではほんの僅かしか記載出来ていない。同行戴いた川手さんにお礼すると共に、お詫びします。

以上